

岡山県感染症週報 2017年 第46週 (11月13日～11月19日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

12月1日は『世界エイズデー』です

◆2017年 第46週 (11/13～11/19) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第45週 5類感染症 梅毒 2名 (40代 男 1名、50代 男 1名)
 第46週 3類感染症 細菌性赤痢 2名 (幼児 男 1名、40代 女 1名)
 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157:70代 女)
 4類感染症 つつが虫病 1名 (70代 男)
 レジオネラ症 1名 (60代 男)
 5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名 (60代 男)
 梅毒 1名 (10代 女)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で83名 (定点あたり1.20 → 1.54人) の報告があり、前週より増加しました。
 ○RSウイルス感染症は、県全体で44名 (定点あたり1.56 → 0.81人) の報告があり、前週より減少しました。
 ○インフルエンザは、県全体で11名 (定点あたり0.08 → 0.13人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、1名の報告があり、2017年第46週まで (～11/19) の報告数は66名となりました。岡山県では、ひきつづき「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を発令し、注意喚起を図っています。例年、発生報告が多いのは夏季ですが、依然として患者の発生がつづいています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で83名 (定点あたり1.20 → 1.54人) の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市 (3.91人)、岡山市 (1.86人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **RSウイルス感染症**は、県全体で44名 (定点あたり1.56 → 0.81人) の報告があり、前週より減少しました。報告数は減少したものの、依然として患者の発生がつづいています。地域別では、倉敷市 (1.18人)、岡山市 (1.07人)、備中地域 (1.00人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、特に重症化しやすい乳児がいる家庭では、感染予防に努めてください。
4. **インフルエンザ**は、県全体で11名 (定点あたり0.08 → 0.11人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。県内の発生状況など、詳しくは「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2017/2018年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

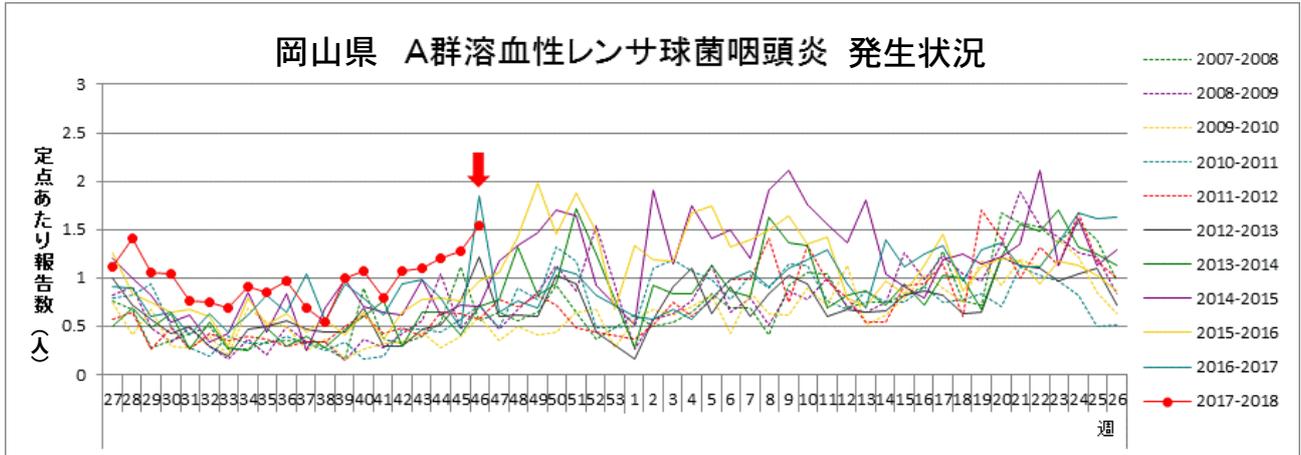
【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

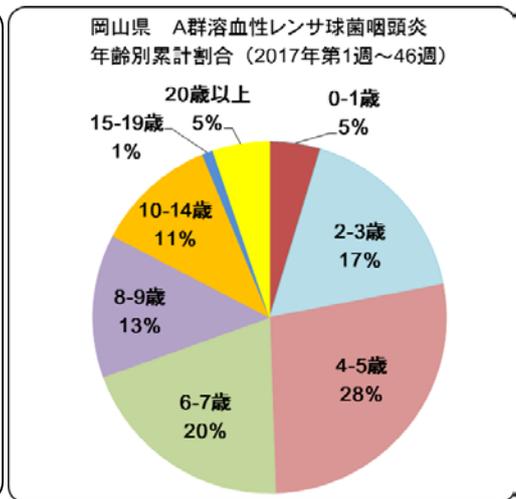
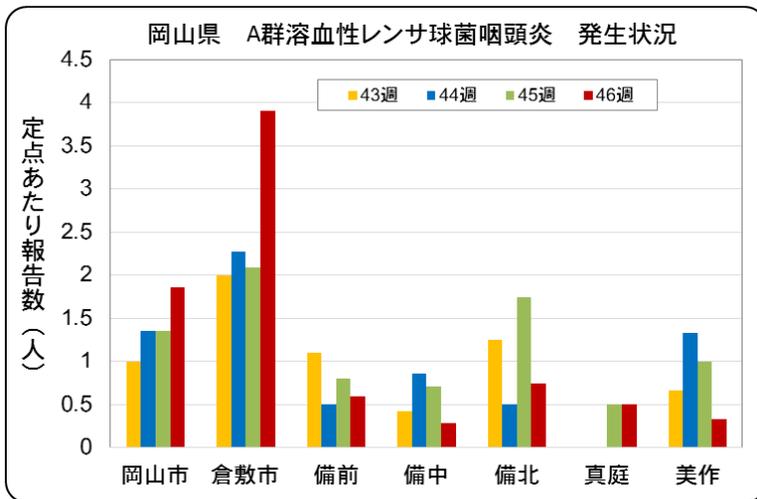
今週の注目感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】

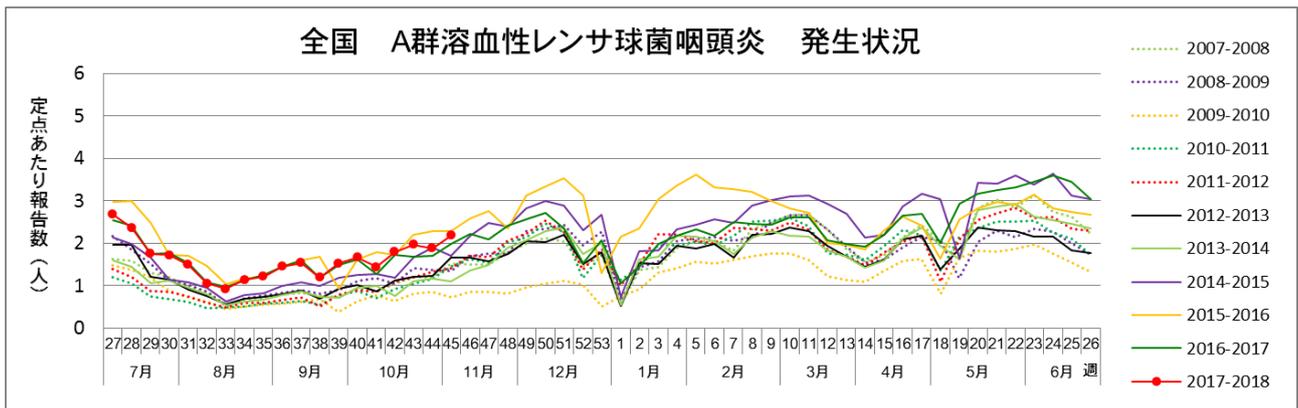


※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

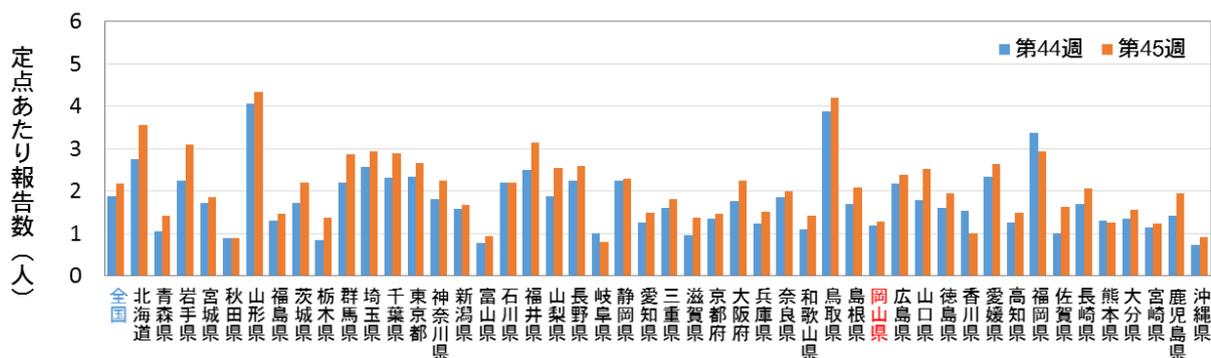


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で83名（定点あたり1.20 → 1.54人）の報告があり、第42週以降増加傾向にあります。過去10年間の同時期と比較して高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市（3.91人）、岡山市（1.86人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に、倉敷市（2.09 → 3.91人）では前週より大きく増加しました。年齢別累計割合では、4-5歳28%、6-7歳20%、2-3歳17%の順に多くなっており、10歳未満の小児が全体の83%を占めています。

【全国の発生状況】



2017年 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



全国の第 45 週（11/6～11/12）の発生状況は、定点あたり報告数が 2.19 人であり、前週より増加しました。過去 10 年間と比較して患者の発生が多い状態で推移しています。都道府県別では、山形県（4.33 人）、鳥取県（4.21 人）、北海道（3.56 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。近隣県でも多くの患者が報告されていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2017 年第 45 週（国立感染症研究所）](#)

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A 群レンサ球菌による上気道感染症です。感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2つの報告数のピークが確認され、就学前から学童期の小児に多い感染症です。

【症状】

潜伏期間は 2～5 日で、突然の発熱と体のだるさ、のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌（イチゴのように赤くブツブツしている舌）がみられることがあります。通常、発熱は 3～5 日以内に下がり、主症状は 1 週間以内に消失する予後が良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後 12～24 時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮しんが出現し、針頭大の皮しんにより、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも 10 日間は、確実に投与することが必要です。

予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい、手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは（国立感染症研究所）](#)

2017年12月1日 世界エイズデー 『UPDATE! エイズのイメージを変えよう』



レッドリボン
エイズに対する理解と
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

・[API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、2016年までに報告されたHIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染者数とAIDS（後天性免疫不全症候群）患者数の累積報告数（凝固因子製剤による感染例を除く）は、27,000件に達しました。地域的、年齢的にもひろがりを見せており、依然として予断を許さない状況にあります。

HIV感染者 …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

AIDS患者 …… 受診時、すでにAIDSを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、AIDS患者として報告されたもの（*いきなりエイズ）。
(既にHIV感染者と報告されている症例がAIDSを発症する等病状に変化を生じた場合は除く。)

※「いきなりエイズ」とは、AIDS発症によって初めてHIVに感染したことが判明することです。

AIDS発症まで、通常数年程度の期間を要するとされていますが、近年発症の早い症例もみられています。

12月1日の世界エイズデーにあわせて、 岡山県内の保健所・支所では、検査日時を拡大して検査を実施します。

[平成29年度保健所における「世界エイズデー」関連夜間・休日検査等実施日時](#)

○岡山県では、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を3つの柱として、全県を挙げて、HIV感染防止と「いきなりエイズ」防止に取り組む、「おかやまエイズ感染防止作戦」を平成25年度から実施しています。

[おかやまエイズ感染防止作戦（岡山県健康推進課ホームページ）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所の

エイズ検査（一部、梅毒等も含む）・性感染症相談はこちらから

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院のHIV検査（電話相談は行っていません）は[こちらから](#)

HIV検査について

HIVに感染しているかどうかは、HIV検査を受けないとわかりません。HIVに感染してからAIDS発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期がづくため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。HIVは、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬等をつづけることで、AIDSの発症を防ぐことができます。早期発見・早期治療がAIDS発症防止やHIV感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律1,000円・即日検査）などでのHIV検査を積極的に利用することが望まれます。もしHIV検査で感染していることがわかった場合でも、県内10ヶ所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

岡山県内での HIV 検査

	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	抗体検査	岡山市・倉敷市・備前・美作保健所 即日 (約1 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 3ヶ月経過後	無料	必須	匿名 性感染症検査も同時に受けられる
		その他の保健所・支所 1 週間後				
拠点病院	抗原抗体検査	即日 (1~2 時間後)	感染が疑われる機会があつてから 8 週間目以降	1,000 円	必須	匿名では受けられない

HIV 等、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください！

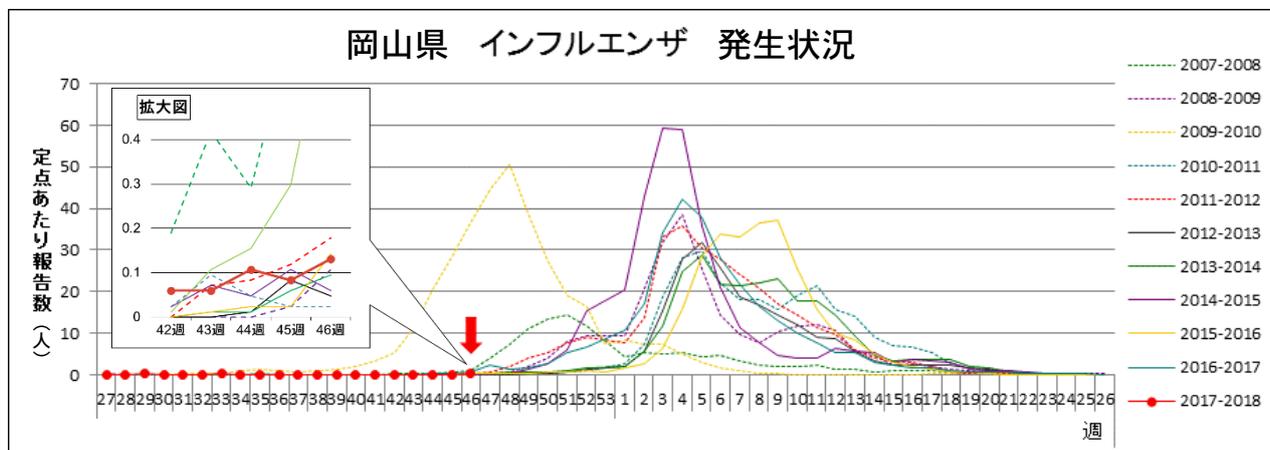
HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果、HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。

HIV 等、性感染症の検査は、保健所および医療機関などで受けてください。

インフルエンザ週報 2017年 第46週 (11月13日～11月19日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で11名（定点あたり0.13人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、美作地域で6名、岡山市・倉敷市で各2名、備中地域で1名の報告があり、県全体では11名（定点あたり報告数0.13人）の発生となっています。今シーズン（2017/9/4～）は、第36週（9/4～9/10）から散発的に患者が報告されており、第37週（9/12～9/18）に入院患者1名の報告がありましたが、患者の発生は少数にとどまっています。

全国の第45週（11/6～11/12）の発生状況は、定点あたり報告数が0.52人であり、今シーズンに入ってから徐々に増加しています。都道府県別では、沖縄県（3.78人）、長崎県（1.94人）、福井県（1.84人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、流行開始の目安（定点あたり1.0人）を超える都道府県は、すでに8県となっています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、全国では、すでにインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業も報告されています。外出後は手洗いを励行し、感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2017年第45週（国立感染症研究所）](#)

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

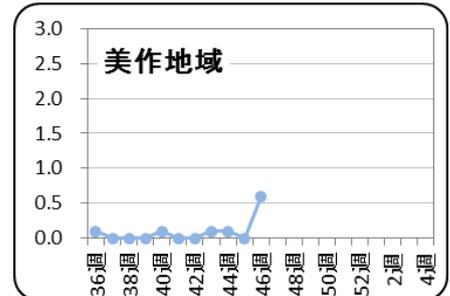
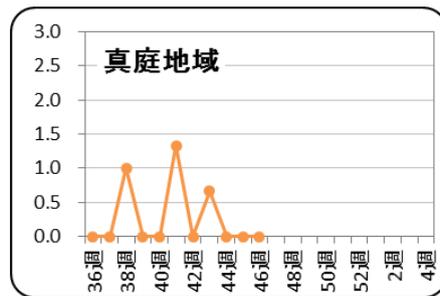
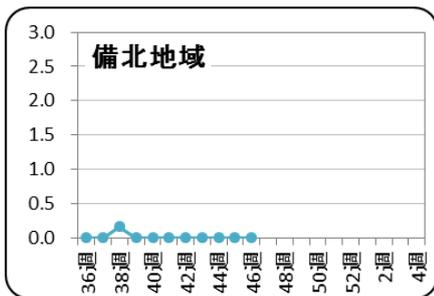
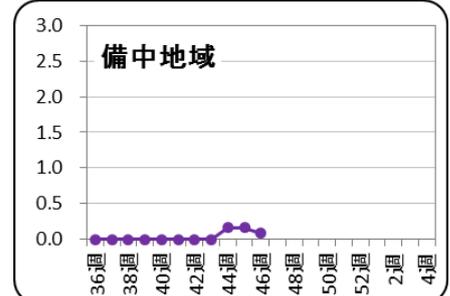
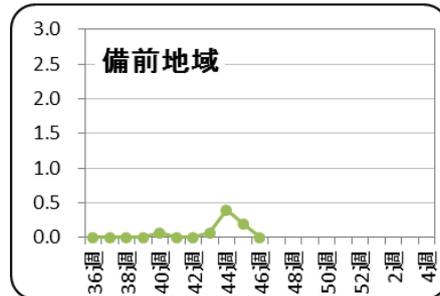
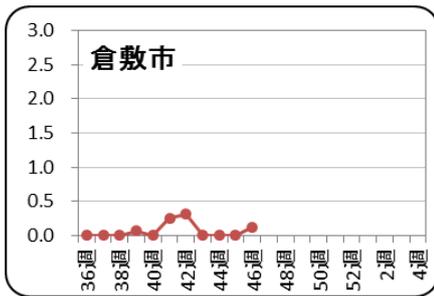
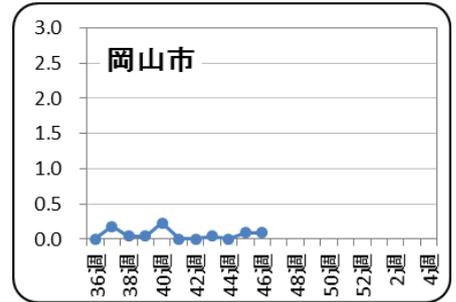
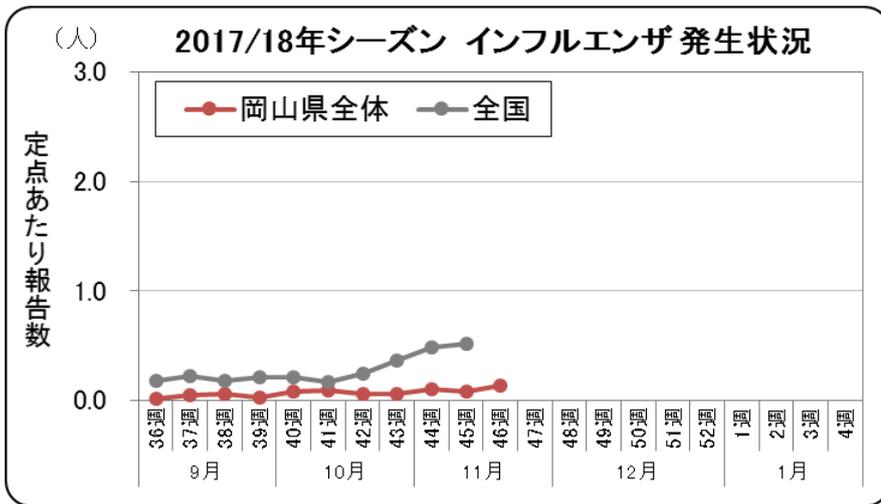
[平成29年度 今冬のインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	11	▲	備 中	患者数	1	▼
	定点あたり	0.13			定点あたり	0.08	
岡山市	患者数	2	▶	備 北	患者数	0	▶
	定点あたり	0.09			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	2	▲	真 庭	患者数	0	▶
	定点あたり	0.13			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	0	▼	美 作	患者数	6	▲
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.60	

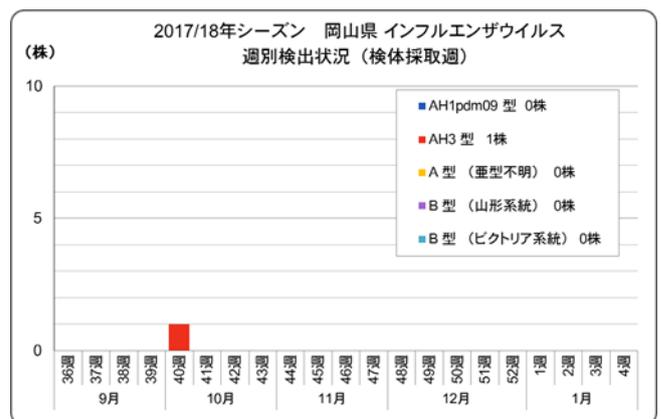
【記号の説明】 前週からの推移 ▲：大幅な増加 ▲：増加 ▶：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▼：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減



2. インフルエンザウイルス検出状況

第46週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、1株（詳細は下表参照）でした。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が70株、AH1pdm09型が69株、B型が46株〔山形系統38株・ビクトリア系統7株・系統不明1株〕検出されています（11月17日現在）。



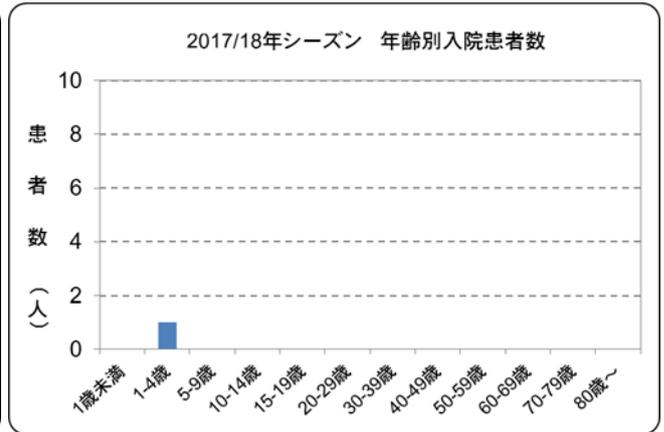
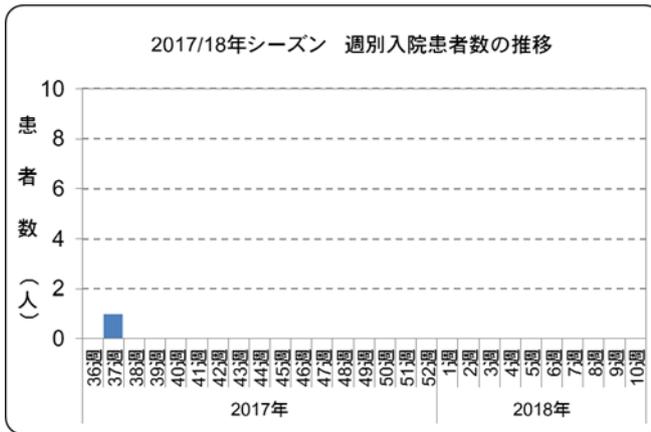
ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH3型	2017年第40週(10/2~10/8)	2017/10/2	岡山市	幼児	男	

3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

4. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。



【2017年9月4日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数		1											1
ICU入室 *		1											1
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *		1											1
頭部 MRI 検査(予定含) *		1											1
脳波検査 (予定含) *		1											1
いずれにも該当せず													

* 重複あり

◆◆ インフルエンザの予防接種は、お早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることが望ましいです。
定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- ・ 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・ 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- ・ 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。
◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2017年 46週(定点把握)

(2017/11/13~2017/11/19)

2017年11月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当												
インフルエンザ	11	0.13	2	0.09	2	0.13	-	-	1	0.08	-	-	-	-	6	0.60
RSウイルス感染症	44	0.81	15	1.07	13	1.18	3	0.30	7	1.00	2	0.50	-	-	4	0.67
咽頭結膜熱	11	0.20	8	0.57	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	83	1.54	26	1.86	43	3.91	6	0.60	2	0.29	3	0.75	1	0.50	2	0.33
感染性胃腸炎	326	6.04	83	5.93	66	6.00	59	5.90	18	2.57	23	5.75	22	11.00	55	9.17
水痘	17	0.31	5	0.36	5	0.45	4	0.40	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
手足口病	51	0.94	33	2.36	13	1.18	3	0.30	-	-	-	-	2	1.00	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	11	0.79	2	0.18	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	0.20	-	-	3	0.27	-	-	1	0.14	7	1.75	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	0.13	2	0.14	2	0.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	4	0.80	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 46週(発生レベル設定疾患)

(2017/11/13~2017/11/19)

2017年11月23日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当												
インフルエンザ	11	0.13	2	0.09	2	0.13	-	-	1	0.08	-	-	-	-	6	0.60
咽頭結膜熱	11	0.20	8	0.57	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	83	1.54	26	1.86	43	3.91	6	0.60	2	0.29	3	0.75	1	0.50	2	0.33
感染性胃腸炎	326	6.04	83	5.93	66	6.00	59	5.90	18	2.57	23	5.75	22	11.00	55	9.17
水痘	17	0.31	5	0.36	5	0.45	4	0.40	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
手足口病	51	0.94	33	2.36	13	1.18	3	0.30	-	-	-	-	2	1.00	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	0.20	-	-	3	0.27	-	-	1	0.14	7	1.75	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	0.13	2	0.14	2	0.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	4	0.80	-	-	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第46週 2017/11/13~2017/11/19)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	11	-	-	1	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	2	2	-	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	44	11	7	15	6	4	-	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	11	1	-	4	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	83	-	1	1	7	7	8	9	6	8	11	6	14	-	5
感染性胃腸炎	326	5	24	64	32	23	20	21	10	19	7	9	33	7	52
水痘	17	1	-	4	1	-	2	2	2	1	-	3	1	-	-
手足口病	51	1	2	23	6	9	1	5	-	2	1	-	-	-	1
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	-	5	12	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	11	-	1	3	5	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	2	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1	1	1	-

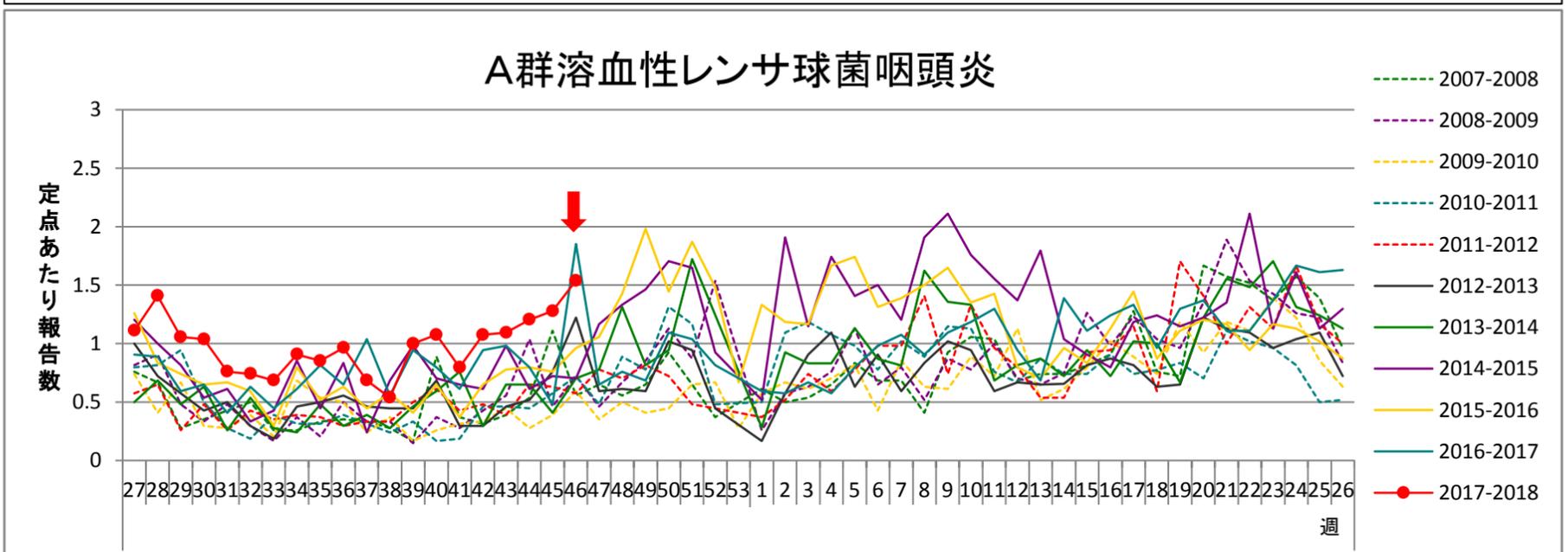
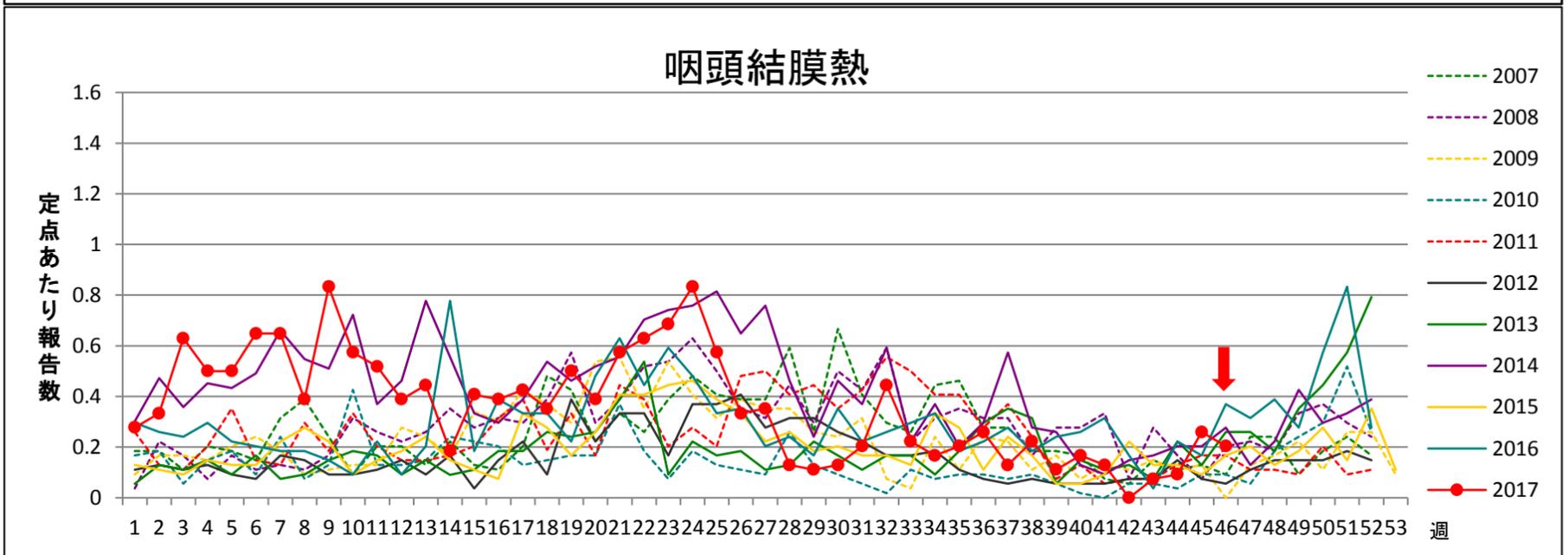
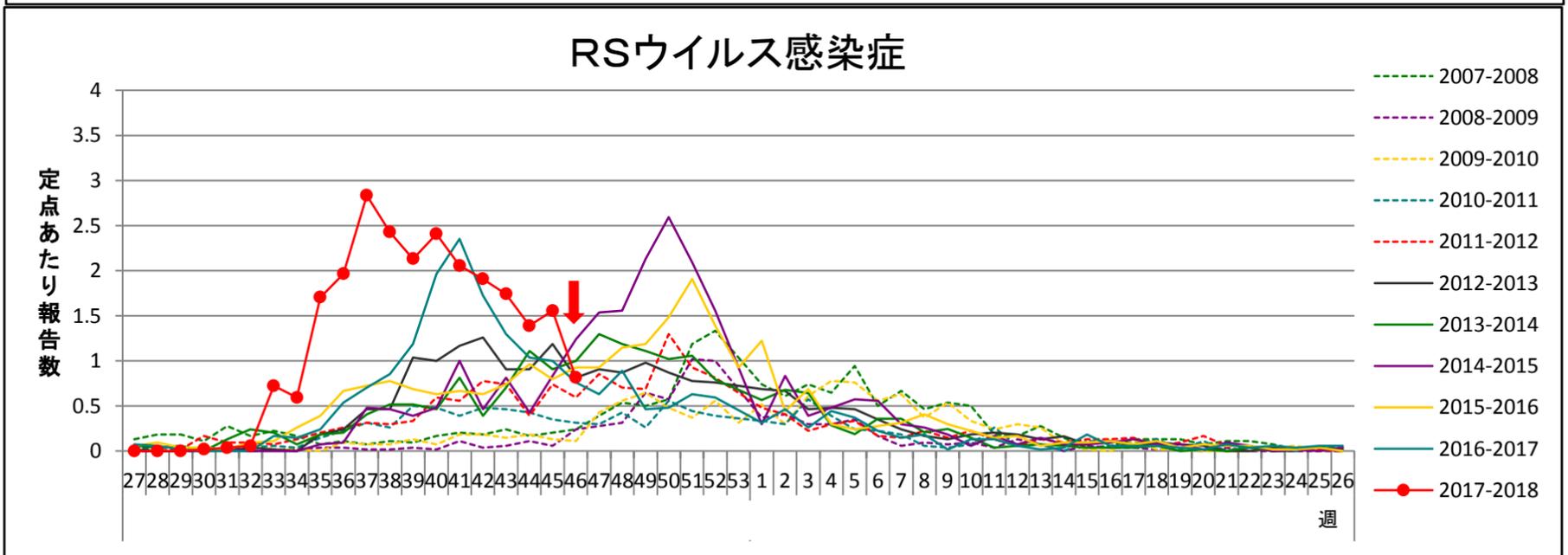
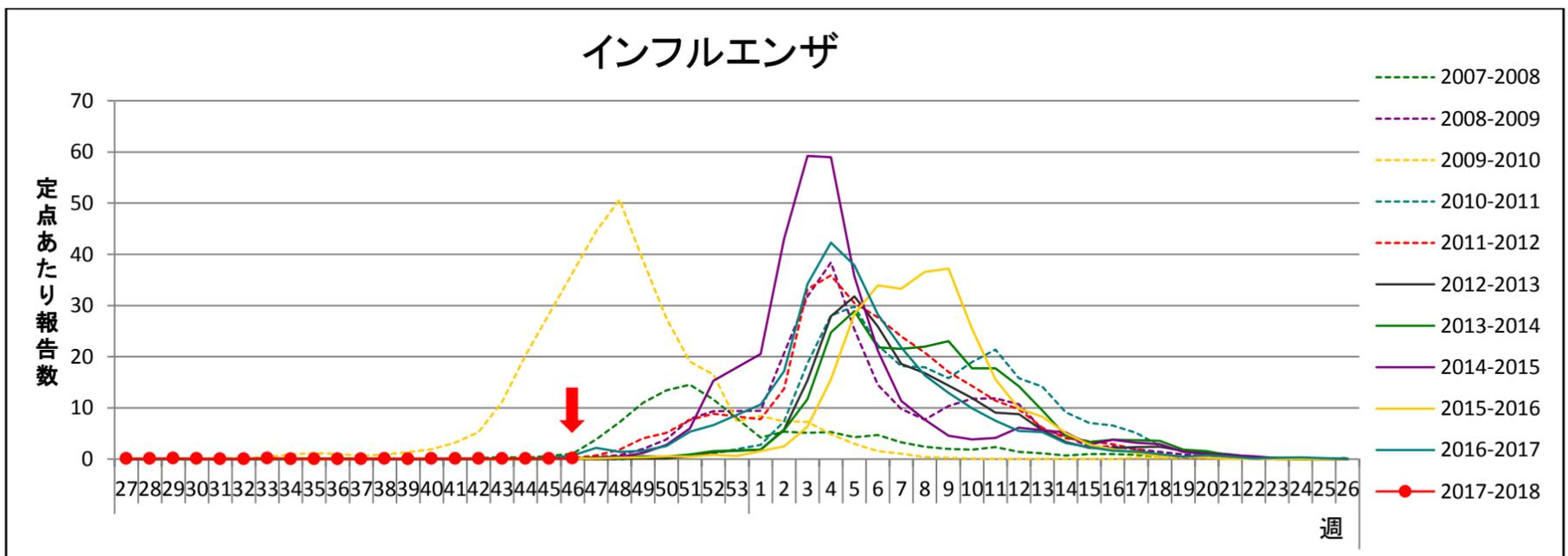
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

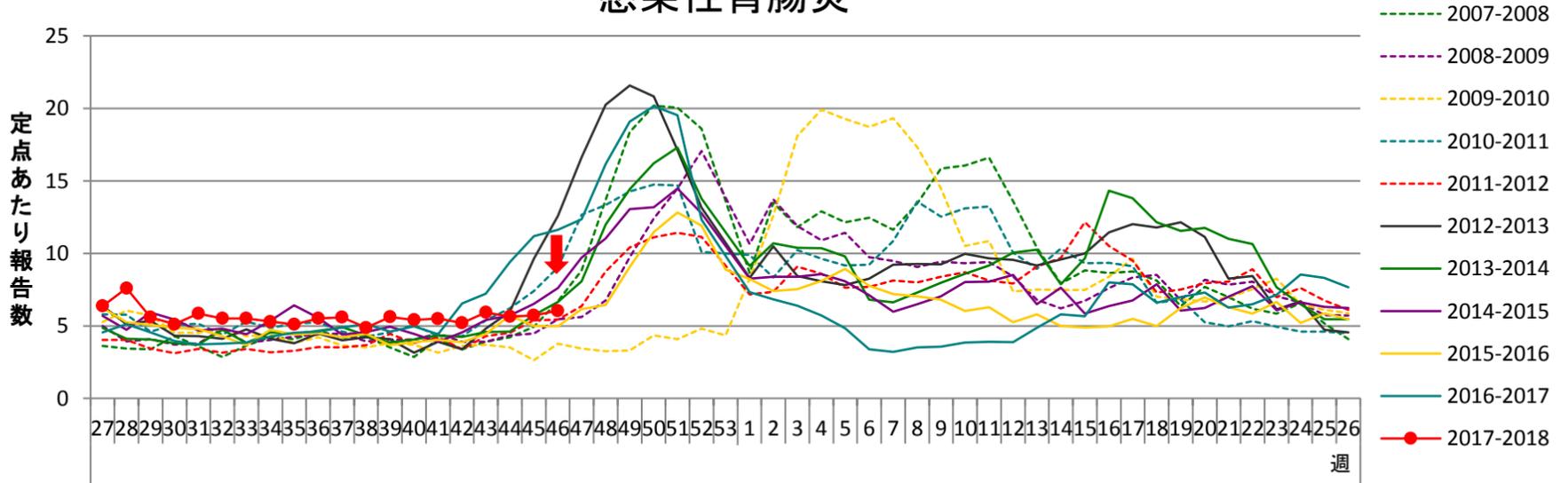
全数把握 感染症患者発生状況

2017年 46週

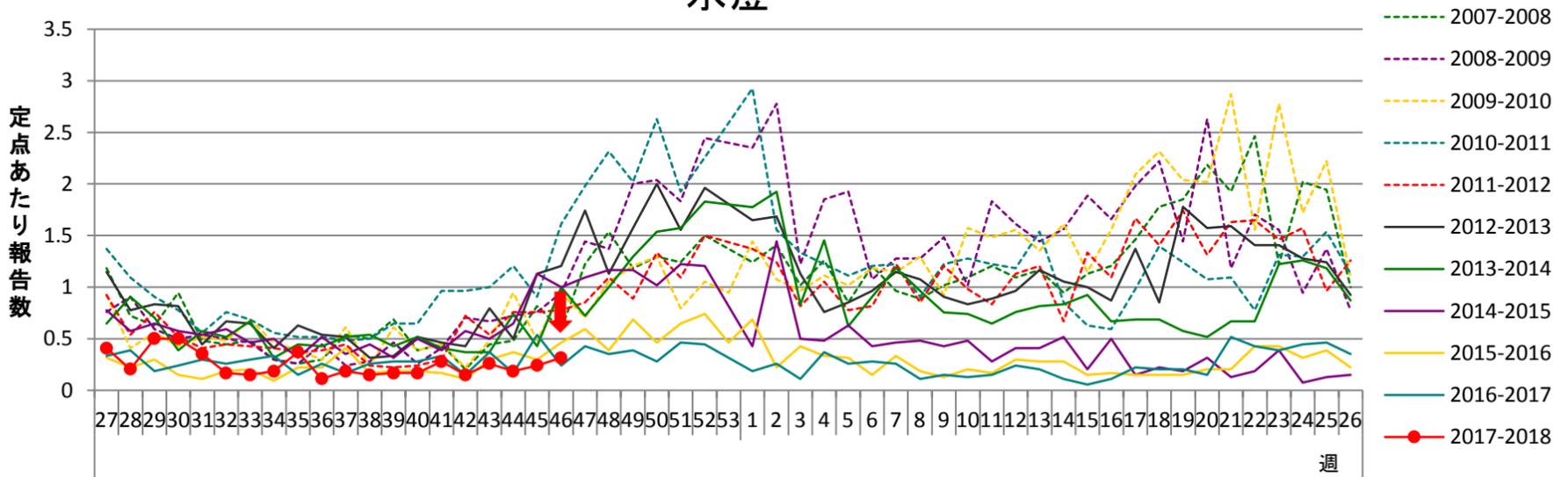
分類	疾病名	2017			疾病名	2016			疾病名	2017			2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年			
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	313	311	ジフテリア	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-
三類	コレラ	-	2	-	細菌性赤痢	2	3	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	66	65	-	-	-
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	-	-	-
四類	E型肝炎	-	1	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	4	3	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	1	1	2	-	-	-
	デング熱	-	2	1	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	1	日本紅斑熱	-	7	5	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	27	26	-	-	-
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	19	18	ウイルス性肝炎	-	8	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	14	28	-	-	-
	急性脳炎	-	3	11	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	3	-	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	7	7	後天性免疫不全症候群	1	16	12	ジアルジア症	-	-	1	-	-	-
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	33	32	-	-	-
	水痘(入院例に限る。)	-	5	3	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	1	151	40	-	-	-
	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	-	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	6	1	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-		-	-	-	-	-	-



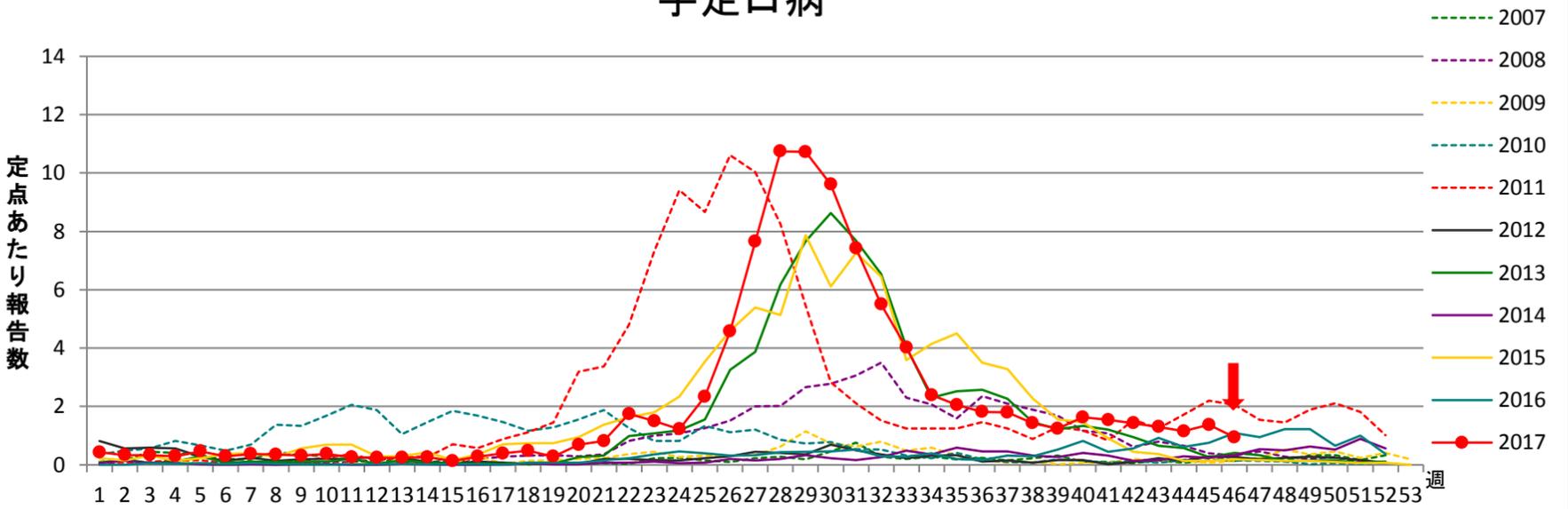
感染性胃腸炎



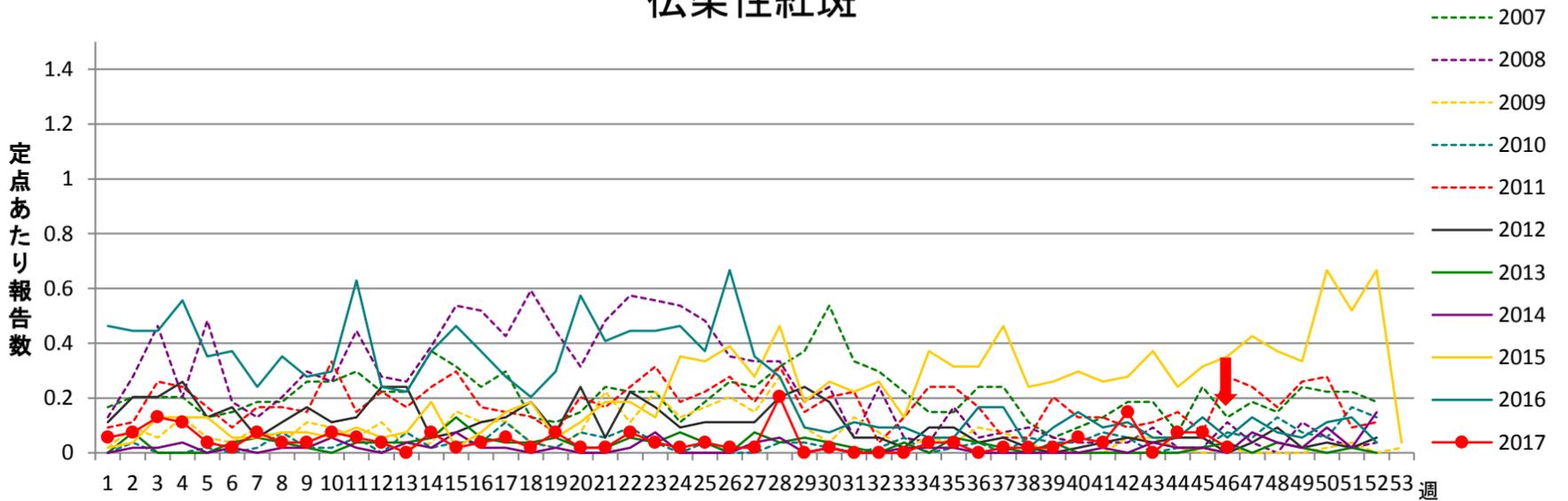
水痘



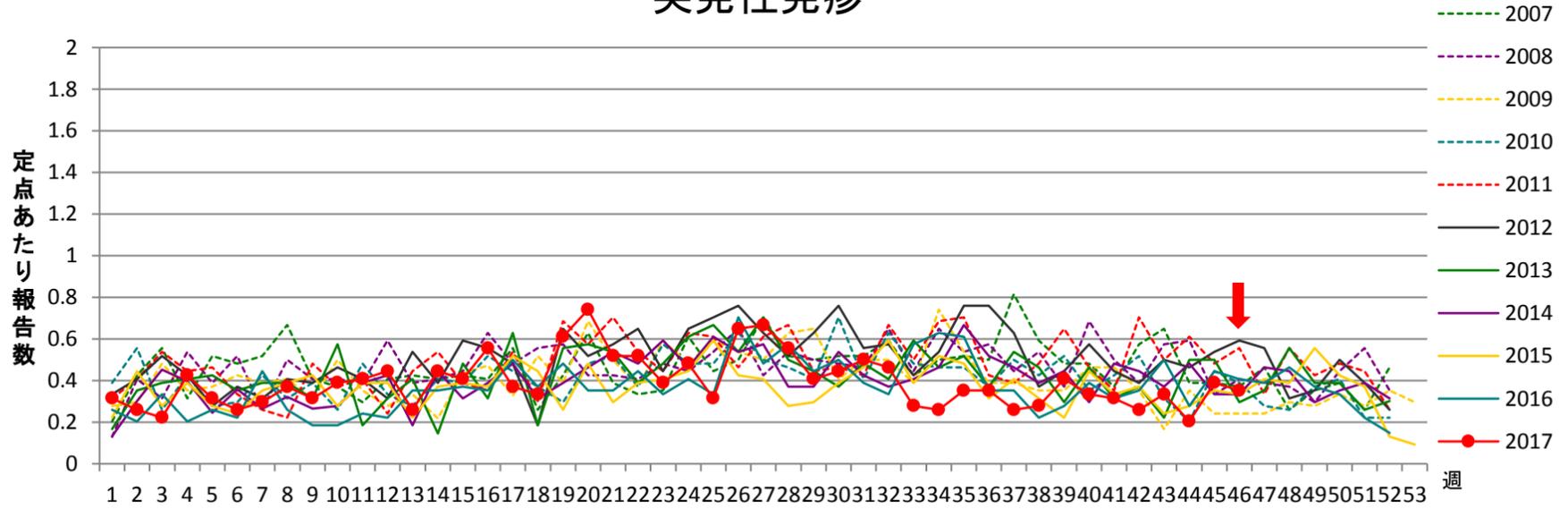
手足口病



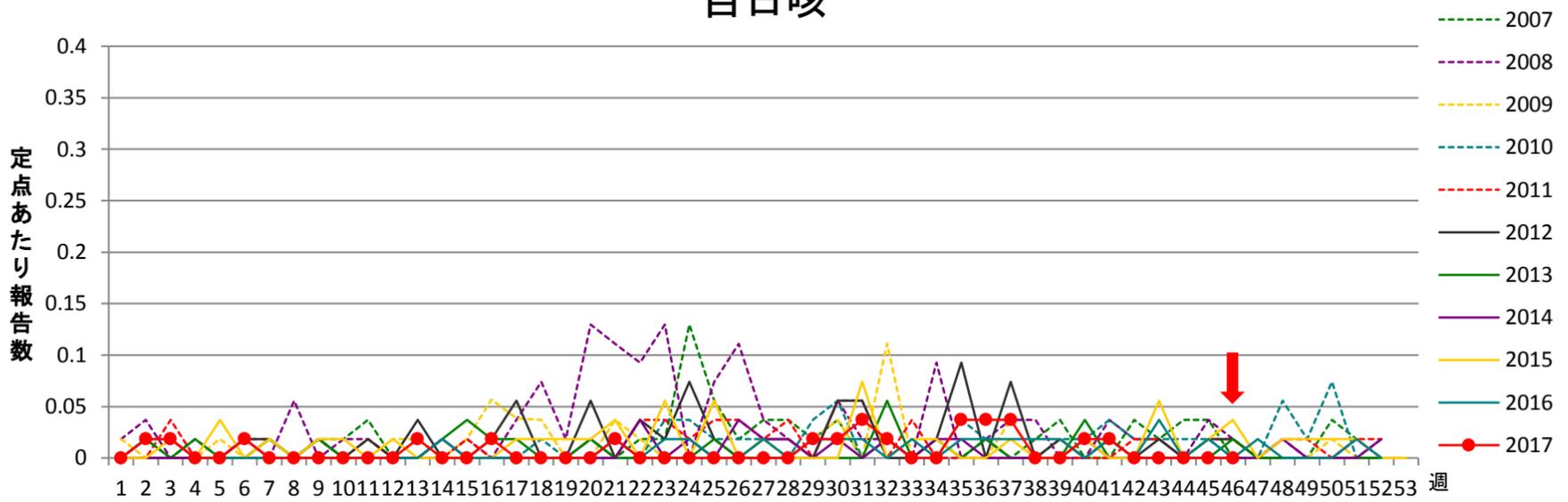
伝染性紅斑



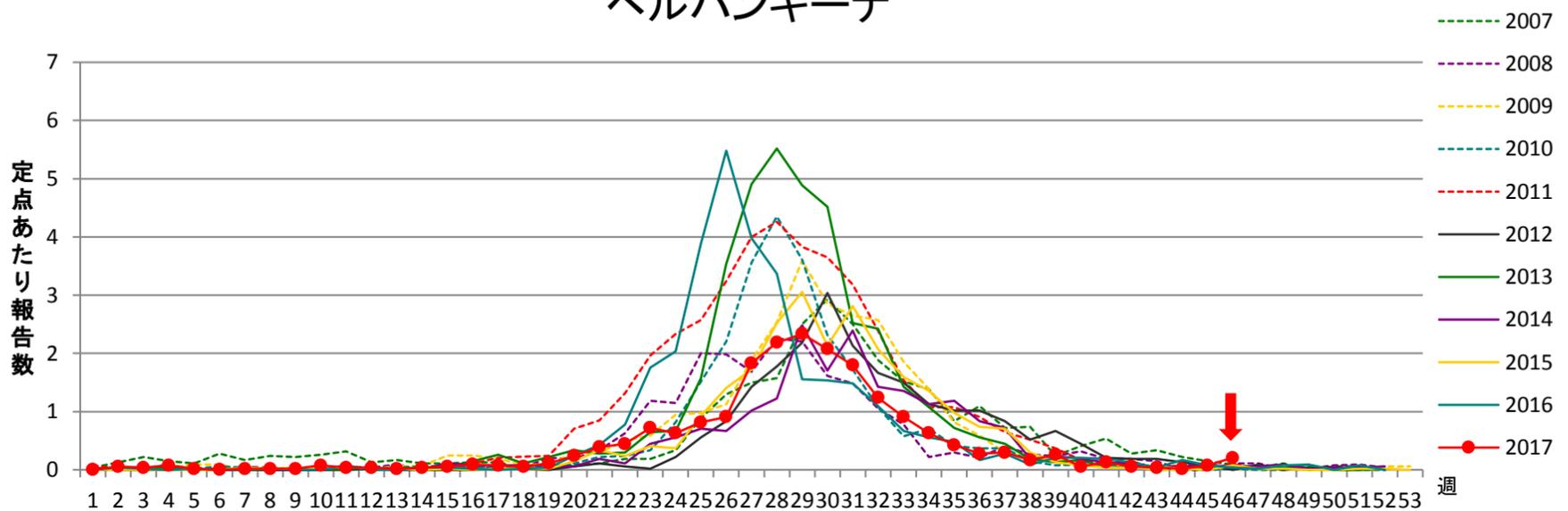
突発性発疹



百日咳



ヘルパンギーナ



流行性耳下腺炎

